



令和元年度 課題解決型ワークショップ  
演劇×コミュニケーション

演劇から学ぶコミュニケーション講座

# コミュニケーションにおいて 想定される課題

- ・ 職場内のコミュニケーション不足
- ・ 職員と市民のコミュニケーション不足
- ・ コミュニケーション不足による、職場満足度、市民満足度の低下

# ワークショップ概要

コミュニケーション能力は、市職員として円滑に業務を行う上で必要不可欠な能力です。コミュニケーションが円滑に行われないと、職場満足度が低下するだけでなく、市民満足度も低下してしまいます。

考え方や受け取り方、価値観などは人によって異なりますが、演劇的手法を用いて、異なる価値観を理解し、受け入れ、自分の価値観とすり合わせるができるコミュニケーション能力を身につけます。

講師

平田 オリザ 氏 (演出家、劇作家、青年団主宰)

対象者

講座参加者 丸亀市役所職員 19人

実施日

2019年7月24日 (水) (1回実施、2時間/回)

# ワークショップ内容

実施内容	詳細
講座全体の説明	参加者である丸亀市役所職員に研修の目的を説明。
自分と同じ答えの人を見つける	好きな色・好きな果物・丸亀市の名物・今行ってみたい国・誕生月などについて、自分と同じ答えを持っている人を見つける。
相手を意識する	<ul style="list-style-type: none"><li>参加者は2人組になり、手を使わず相手に体重を預けて同時立ち上がる。</li><li>参加者は3人組で縦一列に並び、真ん中の人を前後に押す。</li></ul>
認識やイメージの違いを理解する	1～50の番号札が配られる。配られた番号が1に近いほど大人しい趣味、50に近いほど活発な趣味を持っている設定とする。お互いに、番号以外の情報を伝え合い、番号が近いと思われる人同士でペアをつくる。
役割を演じる	参加者は1～2分程度の短い台詞の台本に沿って役割を演じる。
解説	発話者がどのような意図をもって、その言葉を使っているかというコンテキスト（文脈）について解説。



# ワークショップ参加者の声

## 【参加者の声】

- ・ **人によって物事に対する基準が全然違い、それを少しでも自分と照らし合わせる事が大切だとわかった。**
- ・ **コミュニケーションは相手のことを理解しようとする姿勢から始まる**ということが分かった。
- ・ ついつい相手が分かっている前提で話してしまうので、意識して改善したい。
- ・ 市民にとっての基準と、行政との基準も違う。**自分の基準は市民の基準ではない**。今までも意識はしていたが、根底では変わっていなかったことを再認識した。
- ・ 日々の業務の中で、外部の人と接触することが多い。目的は持っているが具体的に言葉にならない場合もあり、その真意を読んでいくことが大事だと感じた。

# 【ロジックモデル】

